

金融市場NOW

# 世界幸福度ランキング 2017

## ノルウェーがデンマークを抜いて首位に

- 3月20日の『国際幸福デー』に『世界幸福度報告書 2017』が発表された。
- 上位5カ国のうち4カ国を北欧諸国が占める。ライフスタイルや社会保障制度が大きく関係か。
- 平等で安全な社会の中、互いの信頼関係を高めていくことが、日本の順位向上のカギとなるか。

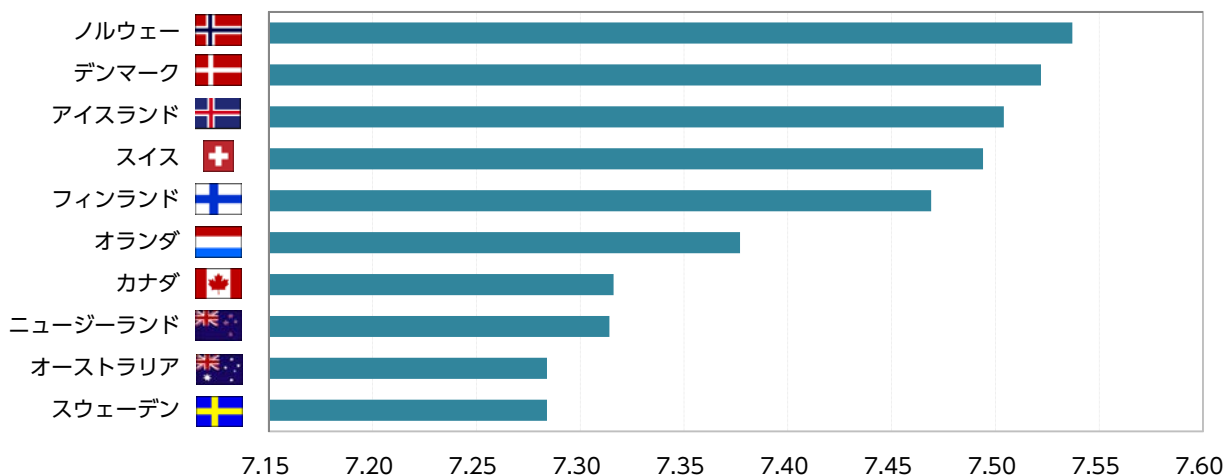
国際連合が定めた3月20日の『国際幸福デー』に、世界の155カ国を対象にした『世界幸福度報告書 2017』が発表されました。同報告書は2012年4月に初めて発表され、今年で5回目となります。ランキングでは、調査対象にする国民の自由度や1人あたりの国内総生産(GDP)、政治、社会福祉の充実度などを幸福度として数値化し、ランク付けされています。

2017年の報告書において、最も幸せな国はノルウェーと発表されました(図表)。上位5カ国のうち4カ国を北欧諸国が占めており、前年首位のデンマークが2位、アイスランドが前年と同じ3位と続いています。報告書では『上位4カ国は、社会福祉や自由の度合いなど幸福に資する主な要因の全てにおいて高評価だった』としています。上位国はすべて裕福な先進国ですが、報告書では『お金だけが幸福に結びつく要因ではない』としています。実際、富裕諸国における幸福度の水準の差は『心の健康、体の健康、人間関係の差』によるところが大きいようです。日本は昨年より順位を2つ上げて、今回は51位となりました。

北欧諸国の幸福度指数が高い理由は、ライフスタイルが大きく関係していることがあげられるかもしれません。日照時間が短く気温も低いため、労働時間が短く、必然的に家に居る時間が長くなるようです。また、医療費や子供の学費が無料であるなど、社会保障制度が非常に充実しているということも理由の1つとして考えられます。

長時間労働や女性の社会進出の遅れなど、日本の幸福感を妨げる要因は指摘されていますが、他の先進国と比べて貧富の差がまだ小さく、一定の社会保障制度が整っているなど、北欧諸国との共通点があります。今後は、平等で安全な社会の中で、互いの信頼関係を高めていくことが順位向上のカギとなるかもしれません。

図表：幸福度ランキングの上位には北欧諸国が並ぶ



※「人口あたりのGDP」「社会的支援」「健康な平均寿命」「人生の選択をする自由」「性の平等性」「社会の腐敗度」の6つの項目をスコア化してランキング。

出所：国連「世界幸福度報告書2017」を基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント

1/1